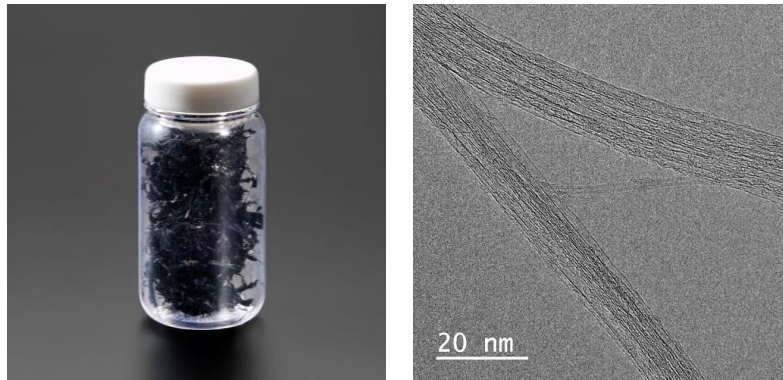


株式会社名城ナノカーボンの一部株式取得について

日本材料技研株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長 浦田 興優、以下「日本材料技研」）は、このたび、単層カーボンナノチューブの開発・製造・販売を手掛ける株式会社名城ナノカーボン（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長 橋本 剛、以下「名城ナノカーボン」）の一部株式を取得いたしました。

名城ナノカーボンは、2005年設立の名城大学発ベンチャーで、高結晶・高純度単層カーボンナノチューブ（SWNT）の準量産技術を世界で唯一保有しています。同社のSWNTは他の導電性カーボンに比べ、圧倒的に導電性能が高く、軽量であることが特徴です。航空機や自動車メーカー、石油化学素材業界などに研究開発素材として使われており、将来的には質量が重い銅に代替することができる素材として注目されています。

<名城ナノカーボンが製造する単層カーボンナノチューブ>



日本材料技研では、これまでに、東京工業大学との間で負熱膨張材の工業化に向けた共同研究契約を締結するなど、機能性添加剤事業の創出に取り組んでいます。また藻類バイオベンチャーである株式会社アルガルバイオにシード出資するなど、他の材料系ベンチャーへの資本参加も進めています。今回の出資を通じて名城ナノカーボンとの連携・協業を深め、日本材料技研が有する業界ネットワークや事業化ノウハウを活用して名城ナノカーボンの企業価値向上に寄与するとともに、ナノカーボン材料を活用した機能性添加剤事業の創出についても検討してまいります。

日本材料技研は、有機材料・無機材料・バイオケミカル等の素材分野に特化したファブレス型ベンチャーとして、国内企業や大学・研究機関等で開発された革新的技術について、ライセンスアウトやカーブアウトを通じた事業化に取り組んでいます。今後、素材分野に関連するベンチャーとも、シードマネーの提供も含めた連携・協業を進め、日本の素材産業におけるイノベーション創出に貢献してまいります。